

「まちづくりに求められる市役所新庁舎を考える」市民シンポジウム 意見交換会の概要

[進行]

宇部市長 久保田 后子

[アドバイザー]

宇部市本庁舎建設基本計画検討委員会 委員長 内田 文雄

[意見発表者]

宇部市議会新庁舎建設特別委員会 委員長 笠井 泰孝

宇部商工会議所 会頭 安部 研一

宇部市商店街連合会 会長 熊谷 満之

宇部市自治会連合会 会長 福田 幸三

宇部市地球温暖化対策ネットワーク 代表 溝田 忠人

NPO法人 防災ネットワークうべ 長谷川 厚子

自主子育てサークル「この指とまれ」 鴨川 聡子

1 窓口機能について

- ・わかりやすいユニバーサルデザインの案内表示を設置。
- ・広々とした、おもちゃやキッズスペースを有した待合スペースの設置。
- ・ベビーベッドやおむつ替え、授乳施設の設置。
- ・親子一緒に使用できる多機能トイレの設置。
- ・1箇所でも相談を受けるワンストップサービスは、絶対に必要。
- ・相談が複層する場合は、担当職員が入れ替わり対応すればよい。
- ・プライバシーを確保した相談窓口の設置。
- ・大人数で相談する場合の大型相談室が2箇所程度。
- ・市職員が快適に仕事をこなせる空間。明るい接客が可能な窓口。

2 市民活動支援機能について

- ・防災の面から、市民の一時的な避難スペース。
- ・災害対策を行う応援職員の食事スペースや、簡易ベッド等の施設を設置。
- ・市民が利用できる小さな会議室。
- ・市民団体が色々なことに使用できる交流の場、10～30人用の小さいホール。
- ・市民団体活動の発表の場、展示活動の場。
- ・子育てサークルができる多目的ホール。
- ・自動販売機等設置した休憩談話スペース、軽食スペース。
- ・市政情報、市の案内を発信するディスプレイを設置。

3 まちづくり拠点機能について

- ・真締川公園と市庁舎の一体化で、市役所周辺は街の看板になる。
- ・祭り等のイベントの広場にもなり、必要な駐車場を含めた広い公園機能がほしい。
- ・洒落た飲食店等生まれて、周辺の商店街との回遊性が一段と強くなっていく。
- ・公園と水辺を一体整備し、核としての市役所建設を要望。
- ・洒落たカフェや飲食店が張り付いて、常盤通りから井筒屋の方まで広がっていくことが理想。
- ・回遊性ができるような空間、核としての市役所を考えて。
- ・道路を横断せずに市役所に行けるバスルートの設定を。
- ・バス停は単なる雨よけではなく、玄関ピロティにし、イベント広場と一体空間に。
- ・駐車場は、屋根に太陽光発電を乗せ、庁舎屋根や壁も太陽光発電を設置。雨水再利用等や蓄電をして省エネハウスのように。

4 防災機能について

- ・まずは市庁舎が被災しないこと。
- ・災害対策本部となるので、職員がしっかり対応できる設備等が必要。
- ・非常電源や水の確保、備蓄食料の準備、情報が入手できる通信系の確保。その情報をもとに適切な意思決定が出来る機能、その情報を市民に伝えることができる機能が必要。
- ・災害の際に、職員が疲労せずに働くことが出来る設備の充実等。
- ・司令塔としての庁舎を分散することで、いろんな役割が混乱する可能性がある。
- ・あそこに行けばなんとかなる、なんとかしてくれる。安心安全である機能が市役所に求められる。
- ・情報の伝達。市内24校区自主防災会各防災会にきちんとした情報を伝達してもらいたい。
- ・対策本部を作り、きちんとした司令を出す。
- ・市役所に防災資材をかなり置く。
- ・市民が防災に対する意識をもつ。(PRが必要)

5 その他新庁舎に対する思いについて

- ・港町庁舎の統合をやめ、計画人員を削減し、計画面積を縮小したことは評価。
- ・建替え後100年位もつ宇部市の顔となるべき庁舎、それだけの期間活躍すべき機能が必要。
- ・出来るだけイニシャルコストを下げ、子孫の代まで債務を残したくない。
- ・設計は港町庁舎を除いた現行職員数ベースでの施設面積が建設費に大いに影響する。将来のICTの活用等も考え、また、本庁舎と支所・市民センター等の機能について、徹底した議論をすべき。
- ・「100周年を新庁舎で」という報告書を提出している。
- ・現庁舎は耐震性がなく危険であり、新庁舎完成が平成33年以降となれば延命工事が必要となる。その間の修繕費が余分にかかることになるため結局どこかで決断しなければいけない。
- ・市債は、今の若い方々の負担となる。これは全宇部市民の問題であることを認識すべし。
- ・一刻も早く、「中心部はこのような街になる」というものを市民に提言して、「これなら夢をもって商売していける」というようなものを出してほしい。
- ・出来る限り早く動き出してほしい。